

福 井 県 医 師 会

だより

第584号 平成22年(2010)2月



雪の白川郷 坂井地区 西野 慎吾

表紙写真説明：雪の白川郷

坂井地区 西野 慎吾

世界遺産・合掌造りの白川郷は、年間およそ150万人の観光客が訪れると言われています。ライトアップには福井から読売旅行のツアー(平成16年2月6日)で出掛けました(医師会だよりの表紙に16年8月、21年2月に掲載)。

昼間、雪の白川郷の写真を撮りたくて翌年1月27日に単身、車を駆って白川郷へ出掛けました。集落を一巡りし、他の観光客は引き返して行きましたが、私は眺望のきく小高い丘に登りました。下山の途中で撮った集落の写真を供します。

この写真の手前の家は、昔庄屋であった国指定重要文化財の和田家です。

醫 縫 録

福井県立病院の課題

— 公立病院改革プランをふまえて —



福井県立病院長 山本 信一郎

外科医になって35年余。少々大袈裟かもしれませんが手術と術後管理に命をかけてきました。特に心臓や大血管手術に対しては常にスタンバイ状態でした。そして、昨年春から福井県立病院長を拝命しました。副院長の時までは、本来の心臓血管外科医としての業務と中間管理職業務を、徐々に管理職業務にシフトしながらバランスよく使い分けてきたつもりですが、緊急手術や長時間手術を理由に、院外からの来賓との約束や、議長をせねばならない会議などをドタキャンすることはもはや出来ない立場になりました。

当院は研修医を含めた医師数152名、全従業員数990名余、病床数1,082床の急性期総合病院です。中央医療センター、こころの医療センター、健康診断センター、救命救急センター、母子医療センター、及び平成21年2月から始動したがん医療センターの6センターから成り立っております。その中の、こころの医療センターの医師不足に端を発した精神科病棟一時休止問題は精神科医師退職に伴う補充が困難であることから、長年維持してきた7病棟400床の運営維持が困難になり、5病棟285床へ縮小せざるを得ないというものでした。知事の厳命で、私自身も精神科医師探しに全国を東奔西走すると同時に全国の公立精神病院院長にも数多くお会いしご相談申し上げました。また福井大学精神科教授をはじめ多くの先生方からも色々な対策案をご教示頂くとともに、県内の開業医を中心とする精神科医師たちとの会合に出席する中から見えてきたことは、深刻な医師不足もさることながら、精神科医療の在り方の急激な変化でした。特に総合病院の精神科のあるべき姿、期待される姿が現実と大きく乖離していることを認識せざるを得ませんでした。福井県の精神科医療を荒廃させないためにも、当院は病棟を一時休止(削減)した上で、急性期医療や身体合併症に特化せざるを得ず、さらに強力な輪番制などの再構築も必要等々との思いを強くしております。今後は患者動向、民間精神科医療機関との機能分担の状況、基幹病院としての県立病院の機能強化の観点を踏まえて、一時休止病棟の有効な活用法を検討したいと考えています。

さて、本論に入ります。本邦においては産科や小児科を中心とした医師不足を中心に地域医療が崩壊の危機にさらされ、とりわけ公立病院の赤字体質が地

方自治体そのものの財政に大きくのしかかっていることは広く知れ渡っています。このため、平成19年12月に総務省から示された「公立病院改革ガイドライン」では「公立病院が今後も地域において必要な医療を安定的かつ継続的に提供していくためには、抜本的な改革の実施が避けて通れない課題」とされ、「安定した経営の下で、良質な医療を継続して提供すること」が強く求められました。そのために具体的な「経営の効率化」、「再編ネットワーク化」、「経営形態の見直し」を含めた抜本的な改革プランの提出が求められています。経営の効率化に真摯に取り組むことは当然としても、経営形態の見直しをも含めた改革プランとなると、とても公営企業法一部適応の当病院だけで対応できるものではありませんので、福井県健康福祉部と協議に協議を重ねて、平成21年7月ようやく「福井県立病院経営改革プラン」が完成しました。これは、県立病院として、自らが果たすべき役割を再認識し、改めて自らの在り方を明確化する重々しい作業でした。その骨子は、①安全・安心を支える医療の提供：三次救急医療、周産期医療、災害医療、精神医療、総合医療(複数の専門医による診療体制)の強化、②高度・先進的な医療の提供：がん医療センターの整備、陽子線がん治療施設の整備、③地域医療の支援：地域支援病院、へき地医療拠点病院、医療人材育成病院としての機能強化などです。経営については、新病院の減価償却費などを含んだ単年度収支は赤字ですが、資金収支は黒字であることから、今後も効率的な経営をめざすこととし、政策医療に対する繰入金算定についても一層の明確化を求めることになりました。ただ経営形態については、当面はこのままとし、陽子線がん治療施設が本格的稼働する時期以降に改めて検討することとしております。

最後になりましたが、福井県立病院は県医師会の先生方のご協力を得ながら、健康長寿福井県民の更なる健康増進、健康維持のために最大限の尽力をしていく所存ですので、今後ともご支援賜りますよう宜しく御願い申し上げます。